

子供にうつれる家庭のかけ

林 ふみ

私が世話しました子供のの中に入つになる一人の女の
児がありました、この児は、うまれつき伶俐で、従順
で、しかも快活で、實によい児でありました。けれども、
惜しいとは、一つの疵がございました。それは、他で
はありませんが、人のあやまり、又は非を見ると、直ちに
告口をし、また友にさゝやくことでありました。實に
これは玉に疵でありますから矯正に骨折りましたけれ
ども、一向さゝめがありません。折から私はふとした
ことから、この児の父兄としたしく、交際することゝ
なりまして、一日其の家庭をたづねました。時に一人
の客が、私といれちがひに、客室を出ました、さて其
家の様子は一寸見ましても、清くわたゝかきもの、様

でありまして、主人夫婦はいふまでもなく、打ちひれ
て居る子供等は、よろこんで私を迎へ種々樂しき話に
時をうつして居りました、處が話は、はしなくも先
客のことにうつりまして、主婦は何げなく其人のこと
を、とやかくと、悪く評しはじめました。
あはれ、かやうのことをど思つて居りますらに、其
の女の兒も之に和していはじめました。
あゝ實にこれありてこそと大にさとりました。
即ち家庭に於ける母のかやうの行が其子にかけを
うつしたのでありませう。
かやうな事は一寸考へると、小さなことの様で、其の
主婦も何の氣なしに、したやうでしたが、かういふこ
どが度重つて遂に大きなかけを、子供にうつしたの
でありませう。そうするとこれより、もつと、大きな
ことの影響は、どれほどであるかと思ひますと、實に

恐ろしい様であります。

印度土人の家庭生活

Y. I.

近頃ある外國雜誌を見ましたが、こゝにいふ題の咄が載てをりましたので、記載することに致しました、原文は印度土人の演説の筆記で大變に面白く書いて有りますけれど、譯文はとてもそれを寫し出すことが出来ませんで、どうか其意味だけをお取下さらば幸いです。

御承知の通り印度と申す國は大變に廣大な國でございまして氣候も一樣でなく、その住民も澤山な異つた人種から成り、文明の程度に於きましても開化せんとするものもあり、半開なるものもあり、又未開のものもありません様な次第で、更に其社會組織に至しては、

全く反對で氷炭相容ぬと申すようなものさへありますから、其家庭の狀態を總括して御咄することも容易のことではありません。

されども、此の數多の異りたる人種と宗教のうちに、二つの判然と目立ちて區別せられたる組織がありまして、幾百萬を以て數へらるゝ、印度の人民の過半はこのうちに含まれて居るのでありますが、此二つの社會と申すものは、即ち印度人とモハメット教徒でありまして、其風俗習慣など互に甚しく異つては居ますが、併し其西洋の氣風に反したる點に於ては、二つとも一樣です。

モハメットの命令、その信徒の生活に關しては、世人の熟知する處でありますから、こゝに委しく述べる必要はござりませぬが、一言云て見ますと、此宗派の男女は、印度人よりは遙に、自由を有して居ますので、男